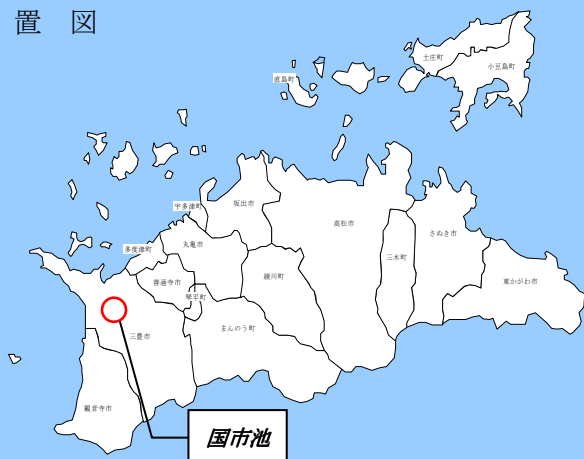


国市池 (くにいちいけ)

位置図



諸元

貯水量	834 千m ³
満水面積	22.8 ha
受益面積	231.0 ha
堤高	7.6 m
堤長	568.0 m

国市池は、慶長2年(1597年)に現池敷の東半分(池敷比五分五厘)を讃岐守領主生駒氏が創築し、寛文8年(1668年)に西半分(池敷比四分五厘)を丸亀藩が池床の拡張により創築しました。この拡張工事は3年を費やし、堤防の嵩上げも併せておこなったため、池敷にあった五丁池、坊主池、上池、下池、盆之池は水没しました。しかし、五丁池については、東堤が国市池の中堤として残り、国市池が満水すると2池を区切る中堤は水没し一つの池に見えるが、渇水期になると中堤に区切られた2池が出現する「池の上に池」という特異な池となり、現在でも「五丁池」としてため池台帳にも記載されています。

長い歴史をもつ国市池は、日本一の大きさを誇る満濃池を別格として、讃岐の国一番を誇る大池であることから「国一池」として明治初期まで約200年にわたって表記されていました。

国市池は、かんがいため池の役割だけではなく、隣接する高瀬高校や中学校のカヌー一部の練習場、ジョギングや散歩等親水空間としても活用されています。また、晩秋から冬にかけてサギ類、カモ類等多くの野鳥が飛来し、中には珍しい野鳥も飛来することもあるため、野鳥の会や愛好家の話題にもなっています。

平成21年度には全国の21万箇所あるため池の中から「ため池百選」に選定されました。



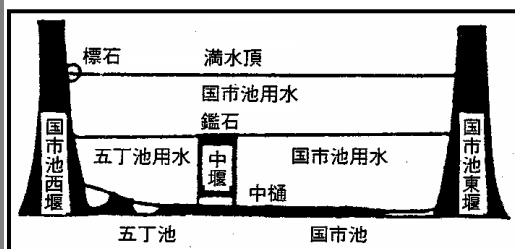
国市池



カヌーの練習風景



五丁池と国市池



五丁池国市池断面図